

## 2016年 バチカンの主な動き

### 1 国内政治

- (1) 法王は、社会的弱者、貧困問題、家族の問題等に対して、バチカンを含む世界各地の聖職者と教会が率先して働きかけることを求めるとともに、自らも実践に努めている。
- (2) 2016年には、バチカン組織改革の一環として、いくつかの機関を統廃合して新たに「信徒、家族、生命機関」及び「統合人間開発促進機関」を設置したほか、過去2年間のシノドス(司教代表者会議)における議論に基づき、家族に関する使徒的勧告「愛の喜び」を発表した。

### 2 対外政策

- (1) 法王は、戦争・紛争、宗教及び民族の対立などでは対話によって解決するよう求めた。バチカンは、コロンビア、ベネズエラなどでは積極的に調停役を務め、中東和平では2国家解決を推進し、中国とも司教任命問題の解決に向けて積極的な対話を継続させるなど、バチカン自身が行動し、影響力を行使した。
- (2) 2月にはハバナ国際空港(キューバ)で、史上初めてのローマ法王とモスクワ総主教(キリル1世)の対談を実現させたほか、5月にはバチカンでタイイブ・アズハル機構総長(注：イスラム教スンニー派の最も権威があると言われている機関の長)と会談し、10月にはスウェーデンで行われたプロテスタント改革500周年記念行事に出席し、法王は、宗教間対話、キリスト教一致促進に努めた。
- (3) キューバ・メキシコ訪問(2月)を皮切りに、レスボス島(ギリシャ)の難民キャンプ訪問(4月)、アルメニア訪問(6月)、ポーランド訪問(7月)など、計6回の外遊を行った。

### 3 我が国との関係

- (1) 3月、現役の外務大臣としては26年ぶりに岸田外務大臣がバチカンを訪問し、ギャラガー外務長官と国際情勢について会談した。
- (2) 5月、秋篠宮同妃両殿下が皇族として23年ぶりにバチカンを訪問し、法王フランシスコを表敬した。
- (3) 1月、高山右近の列福が決定された。
- (4) 4月の熊本県地震、7月のバングラデシュでのテロ事件及び相模原での障がい者殺害事件の被害者のために、バチカンから哀悼の意が表明され、祈りが捧げられた。

(了)